

「卒業おめでとうございます」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様も心よりお喜び申し上げます。

皆さんの学年は、コロナ禍に振り回された大変な学年でしたね。前例のない六月の入学式、時間差登校や、オンライン授業、黙食の給食、宿泊行事の中止など、通常では考えられない様々な困難がありました。先生方も、この難局に、安全を考えながら本来の中学生らしい生活を最大限楽しませてくださり、ありがとうございます。本日この様に子ども達が笑顔で卒業式を迎えられたのは、ひとえに教職員の皆様のアイデアと勇気と実行力の賜物だったのではないかと改めて感謝申し上げます。

皆さんの状況をたどってみるなら、今まで東京湾の中を航行していた船のようですね。今日まで、コロナや受験など大きな波も頑張つて乗り越えてきましたね。でもこれからはいよいよ目的地向かって太平洋に乗り出します。外海は、もつと激しい風や波、時には台風も来て、いつも海図と羅針盤を見つつ航行しなければなりません。時にはクジラや他の船が衝突してくる事もあります。今までの知識や経験を活かして切り抜けられる事もあれば、「もうダメ」と思う事もあるでしょう。そんな時どうしますか？

傷付いた船はドックと言う船の病院に帰りそこで修理してもらいます。日本には「函館ドック」「四国ドック」「佐世保ドック」などがあり、船はそこで破損箇所を修理し再出発します。皆さんにはどんなドックがありますか？

皆さんには「友達ドック」「先生ドック」「親ドック」がありますね。高松の友達は、三年間を共に過ごして来ましたから、皆さんの個性を良く知っています。困った時には恥ずかしがらずにSOSを出して助けてもらってください。また、先生は、長所も短所も理解してください。そして何より親は、造船から関わって、誰よりも一番よく皆さんを知っています。十五年間その船を愛情込めてメンテナンスもしてきました。破損が大きい時は、遠慮なく「親ドック」に戻り体と心を休ませてください。そしてまた元氣を取り戻して、再出発してください。皆さんの人生は始まったばかりで、先はまだまだこれからです。様々な困難や苦難もありますが、命さえあれば何度でもチャレンジ出来ます。命という貴重な贈り物を大切にして、時にはゆつくりと、人生と言う航海を楽しんでください。

保護者の皆様、今日まで子ども達が大きな事故や怪我もなく、無事に卒業式を迎えられた事、心よりお祝い申し上げます。これからは、心から愛する子どもとの繋いでいた手を離し、小さな事には口を出さず、でも目と心は離さず、上手に子離れして行きましょう。そして「空の単症候群」にならないよう、自分とじっくり向き合って、生き生きとした人生を楽しみましょう。

卒業生の皆さんの、今後の活躍と飛躍を心より願っております。

本日は本当におめでとうございました。

高松中学校PTA会長

松野規江